

みずほマーケット・トピック(2023 年 9 月 29 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

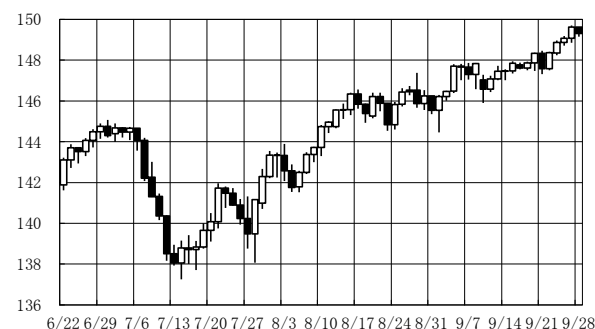
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、米金利上昇を受け年初来高値を断続的に更新も、週後半にかけては政府・財務省による円買い介入への警戒感もあり上値の重い推移となった。週初25日、148.44円でオープンしたドル/円は、材料難の中、148円台前半でレンジ推移。海外時間は、米金利上昇を受け148円台後半に上昇した。26日、ドル/円はドル買いが続き、149円台に乗せた。海外時間は、鈴木財務相の口先介入もあって148円に下落してスタートも、米金利が底堅く推移する中、149円台に値を戻した。27日、ドル/円は149円を挟みレンジ推移。海外時間は、米金利が騰勢を強める流れに合わせ、年初来高値となる149.71円に上昇した。28日、ドル/円は鈴木財務相の口先介入に伴う円の戻り買いや軟調な日本株を受け、149円台前半にじり安。海外時間は、強弱入り混じる米経済指標の結果を受け、米金利が上下する流れに合わせ149円前半で方向感なく推移も、引けにかけては米金利が低下基調となり、149円台前半でややじり安推移となった。本日のドル/円は、引き続き149円台前半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、ドル買いが続く中で1.05を割り込む場面もあったが、米金利の上昇が一服した後は同水準を回復した。週初25日、1.0649でオープンしたユーロ/ドルは、シュナーベル・ECB専務理事による域内景気減速を強調する発言が嫌気される中、米金利上昇も重しとなり、1.06を割り込んだ。26日、ユーロ/ドルは、シムカス・リアニア中銀総裁による早期利下げ期待をけん制する発言が材料視され1.06台に乗せるも、米金利上昇に押され再度1.06を割り込んだ。27日、ユーロ/ドルは、独10月GfK消費者信頼感の弱い結果が嫌気される中、米金利上昇も相まって、一時1月6日以来の安値となる1.0488まで下押しした。28日、ユーロ/ドルは英金利上昇につれた独金利動向を受け、1.05台後半に上昇した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.05台後半での取引となっている。

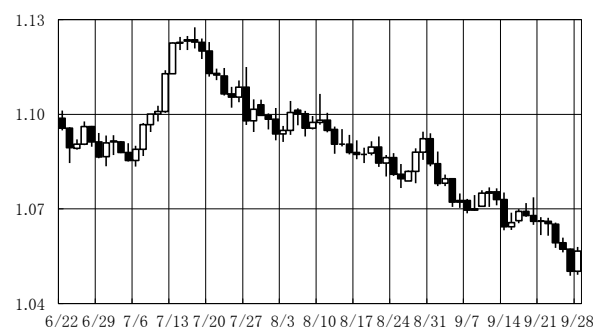
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		9/22(Fri)	9/25(Mon)	9/26(Tue)	9/27(Wed)	9/28(Thu)	
ドル/円	東京9:00	147.65	148.44	148.82	149.06	149.50	
	High	148.42	148.97	149.18	149.71	149.56	
	Low	147.50	148.25	148.71	148.86	149.16	
	NY 17:00	148.39	148.89	149.06	149.63	149.30	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0662	1.0649	1.0591	1.0569	1.0507	
	High	1.0671	1.0655	1.0609	1.0574	1.0579	
	Low	1.0615	1.0575	1.0562	1.0488	1.0492	
	NY 17:00	1.0645	1.0592	1.0573	1.0502	1.0567	
ユーロ/円	東京9:00	157.37	158.08	157.59	157.51	157.06	
	High	158.26	158.18	157.91	157.61	157.87	
	Low	157.18	157.50	157.33	156.97	156.74	
	NY 17:00	157.94	157.75	157.61	157.17	157.75	
日経平均株価		32,402.41	32,678.62	32,315.05	32,371.90	31,872.52	
TOPIX		2,376.27	2,385.50	2,371.94	2,379.53	2,345.51	
NYダウ工業株30種平均		33,963.84	34,006.88	33,618.88	33,550.27	33,666.34	
NASDAQ		13,211.81	13,271.32	13,063.61	13,092.85	13,201.28	
日本10年債		0.74%	0.73%	0.74%	0.74%	0.75%	
米国10年債		4.44%	4.53%	4.55%	4.61%	4.58%	
原油価格(WTI)		90.03	89.68	90.39	93.68	91.71	
金(NY)		1,945.60	1,936.60	1,919.80	1,890.90	1,878.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、10月6日(金)に9月雇用統計が公表予定となっている。8月の結果は、非農業部門雇用者数が+18.7万人(前月比、以下同様)と、7月(+15.7万人)および市場予想(+17.0万人)を上回った。民間部門では、財分野での増勢が目立った。製造業や建設業などで増加が見られた。民間サービス部門や政府部門でも、小幅ながら増勢を加速させている。片や、失業率は3.8%と、7月および市場予想の3.5%からまとまった幅で悪化した。加えて、平均時給は+0.2%と、7月の+0.4%および市場予想の+0.3%を下回った。労働参加率に関しても、62.8%とパンデミック後で最高水準を記録した。総じて労働市場の緩やかな緩和を示すものであり、9月FOMCにおいても、雇用に対する認識は下方修正されるなど好材料として認識された。なお、9月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者数を+17.0万人、失業率を3.7%、平均時給を+0.3%と見込んでいる。

その他、2日(月)に9月ISM製造業景気指数、4日(水)に非製造業景気指数が発表予定。8月の結果は、それぞれ47.6、54.5となった。製造業は7月からは+1.3ポイント上昇も、10か月連続の50割れを記録。項目別には、生産指数や雇用指数などが上昇に寄与も、新規受注指数は悪化するなど総じて弱く、需要の弱さを指摘するコメントが目立った。実際、18対象業種のうち活動拡大を示したのは5業種に限られた。他方、非製造業は7月からは+1.8ポイント上昇し、市場予想の52.5も上回った。すべての構成項目が上昇するなど総じて堅調な結果だが、過剰貯蓄の取り崩しが進行する中、どれだけ非製造業が景気の下支えをできるかは不透明だ。また、業種別では13業種が活動拡大、5業種が縮小を報告した。なお、9月の結果に関し、ブルームバーグの事前予想ではそれぞれ47.8、53.5と見込んでいる。

	本 邦	海 外
9月29日(金)	・8月東京消費者物価指数 ・8月失業率/有効求人倍率 ・8月小売売上高 ・8月鉱工業生産(速報)	・ユーロ圏9月消費者物価指数(速報) ・米8月個人所得/支出 ・米8月個人消費支出デフレーター ・米9月ミシガン大学消費者マインド(確報)
10月2日(月)	・日銀短観(7~9月期) ・日銀金融政策決定会合 主な意見(9月会合分) ・9月製造業PMI(確報)	・ユーロ圏9月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏8月失業率 ・米9月製造業PMI(確報) ・米9月ISM製造業景気指数
3日(火)	—————	・米8月JOLT 求人件数
4日(水)	・9月非製造業PMI(確報)	・ユーロ圏9月非製造業PMI(確報) ・ユーロ圏8月小売売上高 ・米9月非製造業PMI(確報) ・米9月ISM非製造業景気指数
5日(木)	—————	・独8月貿易収支 ・米8月貿易収支
6日(金)	・8月毎月勤労統計 ・8月景気動向指数(速報)	・独8月製造業受注 ・米9月雇用統計

【当面の主要行事日程(2023年10月~)】

ECB 政策理事会(10月26日、12月14日、1月25日)

日銀金融政策決定会合(10月30~31日、12月18~19日、1月22~23日)

FOMC(10月31日~11月1日、12月12~13日、1月30~31日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年9月28日	円安シナリオを長続きさせる貿易赤字
2023年9月25日	日銀金融政策決定会合～マイナス金利解除の行方～
2023年9月22日	週末版
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024年こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか？
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+α」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・賃金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門
2023年8月18日	週末版(本邦7月貿易収支を受けて～中国不振が阻害する収支改善～)
2023年8月17日	本邦4～6月期GDPの読み方～冴えない内需～
2023年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年7月分)
2023年8月14日	年初来安値で確認する円の立ち現在地
2023年8月10日	再投資柔軟化から1年～フランスに並んだイタリア～
2023年8月9日	週末版(アマゾンプライム)値上げの意味するもの～デジタルサービスへの外貨流出～)
2023年8月8日	緩和持続を約束する実質賃金の低迷～円安の余韻～
2023年8月8日	23年上半期の国際収支統計を受けて～CFベースでは赤字～
2023年8月7日	マイナス金利解除の実現可能性～日銀に迫る円売りゲーム～
2023年8月4日	週末版
2023年8月2日	ユーロ圏経済の近況～経済・物価情勢はECB/ハト派を示唆～
2023年7月31日	日銀会合を終えて～今後の課題は「円売りによる挑発」～
2023年7月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～急速に薄らいだタカ派色～)
2023年7月27日	FOMC(7月25～26日)を終えて～現状維持に備え～
2023年7月25日	日銀金融政策決定会合(7月27～28日)プレビュー
2023年7月21日	週末版(正常化が近づくインバウンド需要～労働で稼いだ外貨はどこへ行くのか・・・)
2023年7月20日	23年上半期の貿易収支を受けて～構造変化を直視～
2023年7月19日	残る円安・資源高の余波～物価「変化率」だけでなく「水準」も～
2023年7月18日	ICEドルインデックスの100割れをどう読むべきか？
2023年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年6月分)
2023年7月13日	週末版
2023年7月12日	実効ベースで見た為替相場～最強「フラン」と最弱「円」～
2023年7月12日	円高の読み方～自律反発後にどこまで戻るか～
2023年7月11日	経常収支の正しい読み方～符号ではなくキャッシュフローを～
2023年7月10日	イノベーションボックス税制はBrain freezeの処方箋か
2023年7月7日	週末版(金利差拡大で円安が進まない背景～日本株下落とポジションの偏り～)
2023年7月6日	「投機の円売り」と「夏枯れ相場」～進むキャリー取引～
2023年7月5日	ユーロ圏6月消費者物価指数～雇用・賃金情勢の逼迫～
2023年7月3日	シミュレーション進む「ドル抜きの世界」～COFERの近況～
2023年6月30日	週末版
2023年6月29日	金融政策と通貨政策、動くのはどっちが先か
2023年6月27日	23年3月末時点の「資金循環統計」を受けて
2023年6月26日	「2005～07年の円安バブル」と現在の違い
2023年6月23日	週末版
2023年6月22日	ECBは利上げ停止後に何をするつもりか
2023年6月21日	「Brain freeze(思考停止)」と研究開発サービス赤字
2023年6月20日	「2030年までに対内直接投資残高100兆円」の現実味
2023年6月19日	日本、「監視リスト」除外の読み方～国力低下の象徴～
2023年6月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～we're not at destination～)
2023年6月15日	FOMCを終えて～追い詰められる円高見通しと年内利下げ～
2023年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年5月分)
2023年6月13日	日銀はいつ動くのか～円安抑止策としてのYCC修正可否～
2023年6月13日	家計金融資産の「開放」は何を意味するか～骨太の方針～
2023年6月12日	FRBは他国・他中銀から影響を受けるのか？
2023年6月9日	週末版
2023年6月8日	本邦4月国際収支統計を受けて～「新しい赤字」の影～
2023年6月7日	ユーロ圏のインフレ期待について～6月会合プレビュー～
2023年6月6日	「弱い円」への諦観は日本人を動かすか？
2023年6月5日	米5月雇用統計を受けて～遅く年利下げ～
2023年6月2日	週末版(コアベースでも鈍化し始めたユーロ圏インフレ率～ハト派転化には十分と言えず～)
2023年6月1日	FRB、6月利上げ見送りの受け止め方～円高到来か？～
2023年5月30日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～賃金は峠、エネルギー環境は脆弱～
2023年5月26日	週末版(32年連続世界最大の対外純資産国の意味～過去最高を記録した直接投資比率～)
2023年5月24日	構造的に薄れるPPPを見る意味～「成熟した債権国」と共に～
2023年5月23日	「世界中が欲しがる財・サービス」は「高嶺の花」～「弱い円」の価値～
2023年5月22日	資産価格が上がっているのか、円が下がっているのか
2023年5月19日	週末版
2023年5月18日	1～3月期GDPを受けて～ベントアップ需要を阻む円安～
2023年5月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年4月分)
2023年5月16日	4月国内企業物価指数を受けて～変化率と水準の違い～
2023年5月15日	新しい外貨流出源～デジタル・コンサル・研究開発～
2023年5月12日	週末版(米連邦債務上限問題について～政府機関閉鎖は一時的な円高材料に～)
2023年5月11日	3月国際収支統計を受けて～インバウンドの功罪～
2023年5月9日	ECB政策理事会を終えて～持続する利上げ路線～
2023年5月8日	FOMCを終えて～利上げ停止でも円安持続という現実～
2023年5月2日	円相場の現在地～下がり続ける購買力、最強通貨はフランに～
2023年5月1日	植田体制初会合のレビューと円相場への影響
2023年4月28日	週末版
2023年4月26日	ユーロ/円相場、8年4か月ぶり高値の背景整理
2023年4月25日	日銀、初会合プレビュー～YCC撤廃確率は40%～